

災害ボランティア活動の基礎

第4回

「災害ボランティア活動の際の服装・装備について」

被災地で災害ボランティア活動をする際には、被災地に負担をかけないようにすることが大切です。災害の種類や活動時期によって活動時に必要な服装が違うので、作業や生活に必要なものは事前にしっかりと準備をして被災地に入りましょう。

下記のイラストやリストは一般的な例になります。被災地の社会福祉協議会や自治体のSNSやWEBサイトなどで情報収集する事をお勧めします。

災害ボランティア活動 服装や持ち物の一例



服装（例）

名札・作業服（長袖・長ズボン）・帽子（キャップ型）またはヘルメット・雨具（カッパ・レインコート等）・防塵マスク作業用ゴーグル・タオル手ぬぐい・ヘッドライト・厚手で長めの作業用ゴム手袋・ゴム長靴（鉄板入り中敷を入れると良い）

装備品（例）

マスク・現金・貴重品入れ（ウエストポーチ等）・飲料水（水筒）・食料（食事は自分でお持ち込みください）・菓子類（梅干し・ビスケット・飴等）・着替えタオル・洗面道具・ウエットティッシュ・ティッシュ・ミニ救急セット・常備薬（目薬、うがい薬など）・身分証明書（運転免許証、健康保険証など）・ボランティア保険証明書（事前加入が望ましい）